

(おい出～)

おいえ～くまとり

http://kumatori-kankou.com

編集・発行：くまとりにぎわい観光協会
駅下にぎわい館

VOL008 (2023年春号)

TEL：072-451-2572

FAX：072-451-2571

E-mail：kumatori-kankou@office.eonet.ne.jp



熊取ええとこ再発見 (町外研修)

「亀の瀬」ってどんなところ？

「亀の瀬」は奈良盆地を背に、右手に生駒山地、左手に金剛山地、奈良県から大阪府へと流れる大和川付近に位置しています。

名前の由来は、この大和川に浮かぶ亀の形に似た「亀岩」から。

この「亀岩」を見るだけでもワクワクしませんか。



この辺りは、奈良盆地の水を一手に集める溪谷地帯。溶岩を含んだ僧と粘土層が重なった地層が原因で、古代より地すべりを繰り返してきたとされる。

万葉集には「畏(かしこ)の坂」として恐れられていた地域です。昭和6年から7年にかけて大規模な地すべりが発生し、甲子園8個分以上にあたる32ヘクタールの土地が大和川に向かって約30メートルも移動、川幅は狭まり、上流域は浸水被害を受けました。

河川事務所内には、地すべり対策として地下深くまで打ち込んだ杭が展示されています。地すべりと排水溝、土木遺産のトンネルを現地ボランティアガイドによる案内があります。

その痕跡が残っている「亀の瀬トンネル(旧大阪鉄道亀の瀬隧道)」。土砂が流れ込みトンネルは崩壊したと思っていたのですが、平成20年地すべり対策工事中に偶然にも発見された「幻のトンネル」です。

総レンガ造り、高さ約4.8メートルのアーチ状で天井にはすすの跡が残り、かつて蒸気機関車が走っていた証があるトンネル。

今年1月、トンネル内をプロジェクトマッピングを用いた、幻想的な立体映像をTVで紹介していました。



熊取ええとこ再発見プログラム

「住んで良い町」「訪ねて良い町」熊取町にきょうみのある方、もっと知りたい方、私たちと一緒に魅力の再発見をしてみませんか？
観光ガイドやイベント企画・運営、情報発信に興味のある方、大歓迎！

講座	日程	時間	内容	場所
1	5月29日 (月)	13時00分 ～13時20分	開講式	煉瓦館 講義室 A
		14時10分 ～16時00分	『大森神社の秘宝・御興』	大森神社
2	6月3日 (土)	9時30分 ～12時00分	そば打ち体験	煉瓦館 講義室 A
3	6月6日 (火)	8時30分 ～17時00分	亀の瀬地すべり見学と 郡山城址・民俗村を巡る	柏原市 大和郡山市
4	6月9日 (金)	13時30分 ～16時00分	救急救命講座 『夏を乗り切ろう!』	煉瓦館 コットンホール
5	6月12日 (月)	9時30分 ～11時00分	セミナー 『じねんじょマンの野望』	煉瓦館
		11時00分 ～12時00分	閉講式	コットンホール

重要文化財 中家住宅



中家の歴史

中家は平安時代、後白河法皇が熊野行幸の時に立ち寄り、行宮（仮設の御所）とした由緒ある泉南地方の旧家です。「中」の家名は、前九年の役（1051～62）に源頼義と共に奥州へ下向した高瀬清原武盛の跡を継いだ嫡男盛晴が、中と改めたことに始まり、盛晴の嫡男盛秀は左近将監に任じられ、中家は代々「左近」を名乗りました。

室町・戦国時代には紀伊国根来寺の氏人となり、根来寺一子院であった成真院に子弟を送るなど不快ながら持ちました。そしてその勢力を背景に広く和泉国や紀伊国北部に及ぶ田畠を買い集め、また麴販売の権利を持つなど、

この地方における政治・経済の担い手として活躍しました。なお、成真院院主であった根来盛重は徳川家直臣として、関ヶ原の合戦や大坂の陣で奮戦し、のち徳川家の旗本になりました。

江戸時代には岸和田藩の郷土代官（松平氏の時代）や七人庄屋（岡部氏の時代）の筆頭を勤めました。谷内には四百国を超える持ち高を有し、三十軒前後の「家中」と四十件余りの「内衆」を抱えていました。五門・野田・紺屋・小垣内・宮・久保・下高田の村々の年貢徴収や、年寄・組頭の決定など熊取谷の行政全般を委ねられるとともに元禄5年（1692）には岸和田藩藩札の札元に任じられ、藩経済にも貢献しています。

また中家は江戸時代末期、思想家として活躍した25代当主瑞雲斎（1807～1871）や、明治時代に衆議院議員を勤めた28代当主中辰之助（1867～1936）などの人物を輩出しています。

なお、中根には室町時代の売券をはじめ明治時代に至る古文書が多数伝えられています。（「熊取町史」資料編ⅠⅡを参照）

重要文化財 中家住宅 附 表門 唐門 昭和39年5月29日指定

中家住宅の南面する大きな表門（三間薬医門）を入ると、正面に豪快な土間を持つ主屋が妻面をみせて建っています。

主屋は入母屋造り・茅葺き・妻入りで、周囲に本瓦葺きの庇をめぐらしています。独立性の強い土間は近畿地方でも最大規模のもので寺院の庫裏や武家の台所を思わせます。また架構形式を持つ土間と柱の省略の多い居室部は中世の雰囲気があります。その平面の特質はダイドコロが大きく土間に張り出し、踏み込みのあるナンドとサシキまわりは喰違三間取りを骨格とし、その形態は古式な様相をとどめています。この形式は、泉南地方や和歌山県紀ノ川筋に分布し、喰違三間取りの平面は田の字型の四間取りに発展します。なお主屋の建立年代は江戸時代初期と考えられています。

中家住宅は、現在でも広い敷地を占めますが、江戸時代後期の古図によると、敷地構えは今よりもはるかに大きく、主屋の東側には別棟の式台玄関のつく客殿（書院）がある他、表門の位置も主屋よりずっと手前にありました。また西面し組物をもつ向唐門は客殿に至る賓客用の門として利用されました。他にも長屋門や郷蔵をはじめ付属屋が多く建ち、背後に堀が廻らされるなど、往時の中家の隆盛がしのべれます。

橋下宗吉電気事件の地

中家住宅主屋西側に周囲5m、樹齢600年といわれる末がありました。江戸時代中頃、大坂の蘭学の開祖、橋本宗吉（1763～1836）はフランクリンが風を使って空中で気の正体を確かめた実験（1752年）を中家の協力のもと、この末を使って電気実験を行いました。この様子は、宗吉の著書「阿蘭陀始創エレキテル究理原」に押し絵入りで「泉州熊取谷にて天の火を取りたる図説」として紹介されています。

宗吉は蘭書からの翻訳が中心であった江戸時代において、避雷針の発明につながったフランクリンの実験を紹介するだけでなく、自らも実際に試み、その事実を確かめていった態度は、わが国の電気学のパイオニアと呼ぶにふさわしいものがあります。



現在は枯れてしまい、撤去せざるを得なくなりましたが、石碑を建て、その功績をたてています

熊取ええとこ見～つけた♡

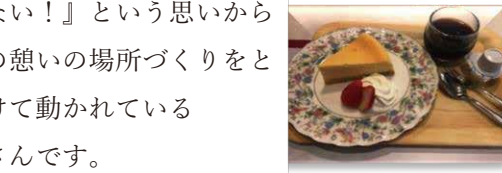
atelier cafe pizzicato(アトリエカフェ ピッチカート)

熊取歴史公園から駅の方向へ細い路地を入ったところにある隠れ家風のカフェです。ご両親が営んでいた店舗兼作業所を出来る限りご自身でリメイクして、アットホームな空間を作られています。

『老いも若きも孤立させない!』という思いから生まれ育った地域の方々の憩いの場所づくりをと夢を膨らませて実現に向けて動かれているとても魅力的なオーナーさんです。

『もっと SNS を駆使してお店の宣伝や湧き上がる想いを発信すべきとも思うけれど文字や文章にすると何か違ってくるようで…』という言葉が、この空間で過ごしてみると何となくわかるような気がしました。

お問い合わせ 070-2298-6254



ゲンジポタル鑑賞会

令和5年6月10日(土)・11日(日)

長池オアシス はすまつり

令和5年7月2日(日) 開催予定

お問い合わせ

熊取町道路公園課

みどり公園グループ

072-452-6404



NPO 法人長池オアシスホームページ

